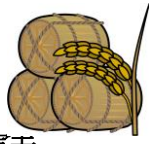


【校長室便り】 No, 28



H30年10月11日(木) 土佐町小中学校 谷内宣天

『世界がもし100人の村だったら3 - たべもの編』の続き②

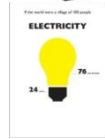
村で使われる水の70%は農業につかわれています。1キロの米を作るには4トン近い水がいります。1キロの牛肉をつくるには20トンの水がいります。牛丼1杯には、2トン以上の水がいります。いっぽうで18人の村びとは料理につかうきれいな水がありません。40人の台所には下水施設がありません。

畑でトラクターをうごかし、化学肥料や農薬をつくり、たべものを工場加工し、包装するものをつくり運ぶには、石油がいります。

アメリカの4人家族は、1年にたべる牛肉のために1000リットルの石油をつかいます。炊事をするのに61人は、ガスや電気や灯油をつかいます。37人は薪などを燃やします。



100人のうち74人の家には、電気がきています。



そのうち33人の家には、冷蔵庫があります。

村ではこの30年の間に穀物が1倍半以上とれるようになりました。肥料は4倍以上つかわれるようになりました。肥料や農薬のつかいすぎで村の農地の65%はすっかりおとろえています。

わたしたちが暮らす日本は、春夏秋冬、旬の食材にめぐまれています。そこでは、果物はどうなっているでしょう。

日本には1億2800万人の人がいますが、日本がもし100人の村だったらたべもの仕事に携わる人は10人です。3人が、田畑を耕し、1人が工場加工し、3人が店で食品を売っています。3人が、食堂など、外食の店で食事のサービスをしています。魚をとったり、養殖をしているのはたったの0.002人です。国の予算のうち農業のためにつかわれるのは2.8%です。

軍事費は5.8%です。



ヨーロッパは狭い国がほとんどです。でも、食料自給率はフランスが122%、ドイツが88%、イギリスが70%です。

日本の食料自給率は40%です。わたしたちのからだの60%はよその国の食べ物でできています。



わたしたちのたべものをつくっている畑の70%は、よその国にあります。わたしたちのたべものをつくるためによその国で1年に使われる水は日本で使われる水の1.1倍です。日本の穀物自給率は28%です。砂漠の国、サウジアラビアは29%です。

もしも日本でつくられるたべものだけだとしたら、わたしたちは1日2600キロカロリーとっているのを1900キロカロリーにへらさなくてはなりません。小麦を50%、肉を90%、油やバターを90%、魚を15%へらして、米を30%、いも類を600%ふやさなくてはなりません。日本の私達は、食費のうち8%を生鮮食品に、30%を外食に、62%を加工食品につかっています。



加工食品は日本が世界一たくさん輸入しています。

加工食品には、添加物が欠かせません。日本では1500種類の食品添加物を1人が1年に24キロ食べています。

小学生と中学生を100人とする、朝食をかならずたべるのは77人です。19人は、たべないことがあります。2人は、ほとんどたべません。**70人は、給食をいつも、あるいはときどきのこします。日本のわたしたちは世界でいちばんたくさんたべのこしを捨てています。私たちが捨てる食べ残しは、年に2000万トン以上です。世界の、食糧援助量は年に1000万トンです。**

中国の賢者、老子はいいました。「もうこれで充分だ」と思える人は、本当の富を探しはじめる、と。

インドの哲学者、ヴァンダナ・シバはいいました。世界は、そこに生きるすべての物に食料をあたえてこそ、持続できる、と。

No, 29 につづく

